

大阪工業大学 梅田キャンパス見学・講演

関西支部・運営部会では5月10日(水)、大阪市北区にこの4月オープンした大阪工業大学梅田キャンパスを見学、また、ロボティクス&デザインセンター長の本田孝夫教授より下記講演をいただきました。

講演「サービスロボット新産業と企業に期待すること」

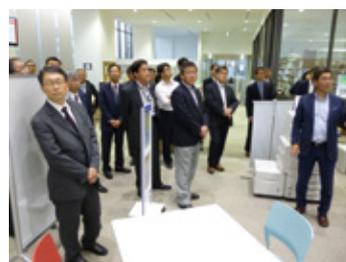
人類はこれまでに経験したことのない超高齢社会に突入し、日本はその先頭を走っています。わが国の65才以上人口は3,186万人(2012年)に上り、社会保障費の抑制と労働人口の確保が大きな課題となります。ロボット技術+ITを活用し、すべての人が生涯現役の「元気超高齢社会」に向けたソリューションを実現できれば、日本発のグローバルビジネスとなるでしょう。リハビリテーションにおけるロボット活用が注目を集めていますが、市場規模が大きいとは言えません。病気や事故で失われた能力には回復の可能性もあり、ロボットが関与する度合いも一概には決められません。むしろ、要介護者のノーマライゼーション(自力で健常者と同様の生活を送る)を支援するロボットが、デンマーク等で盛んに導入されており、ビジネスの可能性も大きいと考えています。ロボットは、IoT、ビッグデータ、AIと並び、政府の成長戦略にも取り上げられ、ロボットによっていかに新たなサービスを創出するか、が国家的な課題です。一昨年には国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) が発足し、医療分野の研究開発予算を集約、基礎から応用まで一貫したマネジメントに向け、体制整備が進んでいます。技術で先行しながら産業化で遅れを取ったこれまでの轍を踏まないために、社会全体が最先端技術の使い方を正しく学ばなければなりません。人と物の流れが集まる梅田にオープンしたこのキャンパスで、企業様の協力も得ながらライフイノベーションに向けた取り組みを発信したいと考えています。



講演の様子

キャンパス見学

講演に引き続き、本田教授のご案内でキャンパスを見学しました。建物は地上21階(高さ125m) 地下2階で、新たに発足した「ロボティクス&デザイン工学部」の拠点となっています。8～9階の「ロボティクス&デザインセンター」では、産業界や海外大学とのコラボレーションにより、学内インターシップ等、新たな形の教育研究が展開されます。6～7階は吹き抜けの大空間で、デジタル技術を駆使した図書館「メディアテーク」、学生の自発的な学習の場である「ラーニング・コモンズ」、100種類以上の植物で構成する庭園「キャンパスフォレスト」が設けられています。1階のエントランスギャラリーではイベントやサイネージシステムによる情報発信が行われ、3～4階の「常翔ホール」は講義、学会、講演会、コンサート等にも利用可能です。梅田の街並みを一望する21階のキャンパスレストランも一般に解放され、地域に開かれた「交流拠点」として新たな知を発信する意気込みに溢れたキャンパスでした。



見学の様子